

上級ミクロ経済学：解答 4

川崎 雄二郎*

2009年5月22日

1. $\alpha > 0, (p, \bar{u}) \in \mathbf{R}_{++}^L \times \mathbf{R}$ を任意にとる。仮定により, 任意の $y \in h(p, \alpha\bar{u})$ に対し,

$$u\left(\alpha^{-\frac{1}{m}}y\right) = \alpha^{-1}u(y) \geq \alpha^{-1} \cdot \alpha\bar{u} = \bar{u}$$

が成り立つ。また, $u(x) \geq \bar{u}$ なる任意の $x \in \mathbf{R}_{++}^L$ について,

$$u\left(\alpha^{\frac{1}{m}}x\right) = \alpha u(x) \geq \alpha\bar{u}$$

が成り立つことから,

$$p \cdot \left(\alpha^{\frac{1}{m}}x\right) \geq p \cdot y.$$

ゆえに

$$p \cdot x \geq p \cdot \left(\alpha^{-\frac{1}{m}}y\right)$$

であるので, $\alpha^{-\frac{1}{m}}y \in h(p, \bar{u})$ 。したがって, $y = \alpha^{\frac{1}{m}}\left(\alpha^{-\frac{1}{m}}y\right) \in \alpha^{\frac{1}{m}}h(p, \bar{u})$ により $h(p, \alpha\bar{u}) \subseteq \alpha^{\frac{1}{m}}h(p, \bar{u})$ が成り立つ。

$h(p, \alpha\bar{u}) \supseteq \alpha^{\frac{1}{m}}h(p, \bar{u})$ の成立は, 上での結果において α を $\frac{1}{\alpha} > 0$ に, また \bar{u} を $\alpha\bar{u} \in \mathbf{R}$ に置き換えることで導出できる。

以上により, 任意の $\alpha > 0$ 及び $(p, \bar{u}) \in \mathbf{R}_{++}^L \times \mathbf{R}$ について

$$h(p, \alpha\bar{u}) = \alpha^{\frac{1}{m}}h(p, \bar{u})$$

が成り立つので, Hicksian 需要対応 h は homogenous であり, 次数は $\frac{1}{m}$ である。さらに, 支出関数 e は任意の $\alpha > 0$ 及び $(p, \bar{u}) \in \mathbf{R}_{++}^L \times \mathbf{R}$ について

$$\begin{aligned} e(p, \alpha\bar{u}) &= p \cdot \left(\alpha^{\frac{1}{m}}y\right) \\ &= \alpha^{\frac{1}{m}}p \cdot y \\ &= \alpha^{\frac{1}{m}}e(p, \bar{u}) \end{aligned}$$

となる (ただし, $y \in h(p, \bar{u})$) ので, h と同じく次数 $\frac{1}{m}$ の同次関数となる。

* 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程1年。質問は jiro_likes_1a2s3k@msn.com までメールください。

2. (a) まず初めに, 任意の $p \in \mathbf{R}_{++}^L$ 及び $\bar{u}, \bar{u}' \in \mathbf{R}$ について, α を以下のように定める.

$$\alpha := \frac{e(p, \bar{u}') - e(p, \bar{u})}{p_1}.$$

双対性の結果が成り立つものと仮定すると,

$$\begin{aligned} h(p, \bar{u}) &= x(p, e(p, \bar{u})), \\ h(p, \bar{u}') &= x(p, e(p, \bar{u}')) \end{aligned}$$

が成り立つ. 宿題3の問題1の結果から, 任意の $p \in \mathbf{R}_{++}^L$, $w \in \mathbf{R}$ 及び $\alpha \in \mathbf{R}$ について

$$x(p, w + \alpha) = x(p, w) + \left\{ \left(\frac{\alpha}{p_1}, 0, \dots, 0 \right) \right\}$$

が成り立つことから,

$$\begin{aligned} h(p, \bar{u}') &= x(p, e(p, \bar{u}')) \\ &= x(p, e(p, \bar{u}) + (e(p, \bar{u}') - e(p, \bar{u}))) \\ &= x(p, e(p, \bar{u})) + \left\{ \left(\frac{e(p, \bar{u}') - e(p, \bar{u})}{p_1}, 0, \dots, 0 \right) \right\} \\ &= h(p, \bar{u}) + \{(\alpha, 0, \dots, 0)\} \end{aligned}$$

を得る.

(b) (a) の結果及び宿題3の問題1の結果から, 任意の $l = 2, 3, \dots, L$, $p \in \mathbf{R}_{++}^L$, $w, w', \bar{u}, \bar{u}' \in \mathbf{R}$ について

$$\begin{aligned} h_l(p, \bar{u}) &= h_l(p, \bar{u}'); \\ x_l(p, w) &= x_l(p, w') \end{aligned}$$

が成り立つので, 双対性の結果を用いれば, 任意の $l = 2, 3, \dots, L$, $p \in \mathbf{R}_{++}^L$, $w, \bar{u} \in \mathbf{R}$ について

$$\begin{aligned} h_l(p, \bar{u}) &= x_l(p, e(p, \bar{u})) \\ &= x_l(p, w) \end{aligned}$$

が成り立つ.

3. 初めに前半部分の証明を行う. 任意の $(p, w) \in \mathbf{R}_{++}^L \times \mathbf{R}_{++}$ に対して

$$p \cdot x(\bar{p}, \bar{w}) \leq w$$

ならば

$$v(p, w) \geq v(\bar{p}, \bar{w})$$

が成り立つことにより直ちに得られる.

続いて Roy's identity を導出する . Lagrangian を用いると , 1 階の必要条件は以下の通り :

$$\begin{cases} \frac{\partial v}{\partial p_l}(\bar{p}, \bar{w}) + \lambda x_l(\bar{p}, \bar{w}) = 0, \forall l = 1, 2, \dots, L; \\ \frac{\partial v}{\partial w}(\bar{p}, \bar{w}) - \lambda = 0; \\ \bar{w} - \bar{p} \cdot x(\bar{p}, \bar{w}) = 0. \end{cases}$$

これにより $\lambda = \frac{\partial v}{\partial w}(\bar{p}, \bar{w}) \neq 0$ なので , 任意の $l = 1, 2, \dots, L$ について

$$\frac{\partial v}{\partial p_l}(\bar{p}, \bar{w}) + \frac{\partial v}{\partial w}(\bar{p}, \bar{w}) x_l(\bar{p}, \bar{w}) = 0.$$

ゆえに

$$x_l(\bar{p}, \bar{w}) = -\frac{\frac{\partial v}{\partial p_l}(\bar{p}, \bar{w})}{\frac{\partial v}{\partial w}(\bar{p}, \bar{w})}$$

が成り立つ .

4. まず初めに , 任意の $p \in \mathbf{R}_{++}^L$, $w \in \mathbf{R}$, $\bar{u} \in \mathbf{R}$ について以下を示す .

$$\begin{aligned} h(p, v(p, w)) &= x(p, w), \\ x(p, e(p, \bar{u})) &= h(p, \bar{u}), \\ e(p, v(p, w)) &= w. \end{aligned}$$

前半の 2 式は , 問 2 の (b) において求めた

$$\begin{aligned} h(p, v(p, w)) &\subseteq x(p, w), \\ x(p, e(p, \bar{u})) &\subseteq h(p, \bar{u}) \end{aligned}$$

が本問の仮定の下でも成り立つことと , x_1 及び h_1 が関数であることから成り立つ . さらに最後の式は , local nonsatiation により Walras' law が成り立つので ,

$$p \cdot x(p, w) = w.$$

上で求めた式により ,

$$e(p, v(p, w)) = p \cdot x(p, w) = w$$

を得る .

次に , $v(p^1, w) > v(p^0, w)$ を示す . 仮定により ,

$$\begin{aligned} p^1 \cdot x(p^0, w) & \\ &\leq p^0 \cdot x(p^0, w) \\ &\leq w \end{aligned}$$

が成り立つので ,

$$v(p^1, w) \geq v(p^0, w).$$

ここで仮に $v(p^1, w) = v(p^0, w)$ とすると, $p^1 \cdot x(p^0, w) \leq w$ であることと x が関数であることから

$$x(p^1, w) = x(p^0, w)$$

が成り立つ. Walras' law が成り立つので,

$$p^1 \cdot x(p^1, w) = w$$

である一方,

$$\begin{aligned} p^1 \cdot x(p^0, w) &= [p^1 - p^0] \cdot x(p^0, w) + p^0 \cdot x(p^0, w) \\ &= (p_1^1 - p_1^0) x_1(p^0, w) + w \end{aligned}$$

であるので

$$\begin{aligned} 0 &= p^1 \cdot [x(p^1, w) - x(p^0, w)] \\ &= (p_1^0 - p_1^1) x_1(p^0, w). \end{aligned}$$

$p_1^0 - p_1^1 > 0$ であるから, $x_1(p^0, w) = x_1(p^1, w) = 0$. このとき, $w' < w$ なる $w' \in \mathbf{R}$ に対して $x_1(p^0, w')$ 及び $x_1(p^1, w')$ が 0 よりも厳密に小さい値をとることができないので, 第 1 財が normal good であることに反する.

$u^1 = v(p^1, w)$, $u^0 = v(p^0, w)$ とすると, $EV(p^0, p^1, w)$ 及び $CV(p^0, p^1, w)$ はそれぞれ

$$\begin{aligned} EV(p^0, p^1, w) &= e(p^0, u^1) - e(p^0, u^0), \\ CV(p^0, p^1, w) &= e(p^1, u^1) - e(p^1, u^0) \end{aligned}$$

と表せる. 任意の (p, \bar{u}) において, $e(p, \bar{u})$ が p_1 に関して偏微分可能であり, かつその偏微分が p_1 において積分可能であるとすると,

$$\begin{aligned} &EV(p^0, p^1, w) - CV(p^0, p^1, w) \\ &= [e(p^0, u^1) - e(p^0, u^0)] - [e(p^1, u^1) - e(p^1, u^0)] \\ &= [e(p^0, u^1) - e(p^1, u^1)] - [e(p^0, u^0) - e(p^1, u^0)] \\ &= \int_{p_1^1}^{p_1^0} \frac{\partial e}{\partial p_1}(\hat{p}_1, p_{-1}^0, u^1) d\hat{p}_1 - \int_{p_1^1}^{p_1^0} \frac{\partial e}{\partial p_1}(\hat{p}_1, p_{-1}^0, u^0) d\hat{p}_1 \\ &= \int_{p_1^1}^{p_1^0} h_1(\hat{p}_1, p_{-1}^0, u^1) d\hat{p}_1 - \int_{p_1^1}^{p_1^0} h_1(\hat{p}_1, p_{-1}^0, u^0) d\hat{p}_1 \\ &= \int_{p_1^1}^{p_1^0} [h_1(\hat{p}_1, p_{-1}^0, u^1) - h_1(\hat{p}_1, p_{-1}^0, u^0)] d\hat{p}_1 \end{aligned}$$

となる. ここで, u を連続関数であると仮定すると, 任意の $p \in \mathbf{R}_{++}^L$, 及び $\bar{u} > \bar{u}' \geq u(0)$

なる $\bar{u}, \bar{u}' \in R$ において,

$$\begin{aligned} & h_1(p, \bar{u}) \\ &= x_1(p, e(p, \bar{u})) \\ &> x_1(p, e(p, \bar{u}')) \\ &= h_1(p, \bar{u}') \end{aligned}$$

により, $h_1(p, \bar{u}) - h_1(p, \bar{u}') > 0$ が成り立つので, $u^1 > u^0$ であることから

$$EV(p^0, p^1, w) - CV(p^0, p^1, w) > 0,$$

つまり

$$EV(p^0, p^1, w) > CV(p^0, p^1, w)$$

が成り立つ.